

# 雪だるまに込めた「思い」

教育評論家

尾木直樹



待ちに待った雪の日――

「雪がしせをこけりけり」の掛け声に、みんなははしゃぎだして「わんせー」の返事。勢いよく、雪の球が元気な声飛び交います。

雪がっせんが得意なりすんは、どんなに速い球も、どんなに大きな球も、ひょいひょいよけて、満足顔です。

そんな時、しほなりすんは、なんときつねんたの投げた球が命中――瞬間、ハッと息をのむみんな。

痛くて大声で泣くりすんたのそばに、みんなはうっせうせに集まります。とろろが当のきつねんただけは、近寄ることもしないで、どこかへ消えてしまいました。きつねんたを探してみんなは走りまわります。

きつねんたはみんなに非難されるのでしょつか？

いえ、違います。みんなが走ったのは、「りすくんは、大丈夫だったよー」と一刻も早くきつねんたに伝えるためだったんです。ありったけの大きな声を出して、真っ白な雪景色の中を必死に探すのです。

「あー」と目をたごひたごひ。しほ、きつねんたを見つけてました――なんときつねんたは、りすくんたにそっくりの雪だるまを作っていました。そして、素直に「おめでとう」と謝ったのです。

素直に謝るって、本当に勇気がいることですよ。大人だって、「怒られるかな」って恐れたり、「自分だけが悪いんじゃないか……」なんて言い訳したりして、なかなかお詫言の言葉が出ないものですよ。

でも、きつねんたは素直に謝りました。心からの謝罪の言葉と、りすくんたへの温かい愛がこぼれ出てきた雪だるまのプレゼントは、みんなの心をほのかかに包みこんでくれた。

雪の球のかけこみ、みんなの温かい気持ちも丸く大きくなったように思えます。